

寺谷用水（磐田市）及び香貫用水（沼津市）の世界かんがい施設遺産登録



2022.10.6 オーストラリア アデレード

経済産業部 農地局



1

世界かんがい施設遺産の概要

概要

かんがい施設の適切な保全に資するため、**歴史的なかんがい施設を国際かんがい排水委員会（ICID）が認定・登録する制度**

登録基準

下記の基準を全て満たす施設

- (1) 建設から100年以上経過
- (2) ダムや堰、水路等の**かんがい施設**
- (3) **革新的な設計・施工等**、当時として特徴的な施設

登録状況（2021年末現在）

	世界	うち国内	うち県内
登録施設数	123 (17カ国)	44 (28府県)	2 (深良用水、源兵衛川)

2

2022年登録施設の決定

ICIDは10月6日に2022年登録施設を決定



寺谷用水（磐田市）と香貫用水（沼津市）が登録

※登録数は全19施設。日本の登録は、井川用水（大阪府泉佐野市）を含む3施設

施設名	寺谷用水 	香貫用水 
申請者	寺谷用水土地改良区理事長	沼津市長
施設概要	供用開始：1590年 受益面積：1,504ha 施設構造：水路 L = 12km	供用開始：1629年頃 受益面積：7ha 施設構造：水路 L = 5km

3

寺谷用水の歴史と特徴

歴史

- 徳川家康の命の下、家臣の伊奈忠次が企画、地域の代官であった平野重定が水路の造成工事を実施し、1590年に完成
- 新たに開田された400haを含む約2,000haの水田を潤し、農村の発展に大きく貢献



大塚樋
(1925年「寺谷用水誌」)

特徴

- 革新的技術の先駆けとなった大塚樋 (おおいりひ) (大型木製函渠)
- ・天竜川からの取水工と、堤防機能を両立した大塚樋を設置
- ・日本のかんがい技術の進展に大きく貢献



大塚樋のイメージ
(幅4m・高さ2m・長さ21m)

4

寺谷用水の概要

概要



船明ダム
(1979年供用開始)



受益地：水田約1,500ha（磐田市）



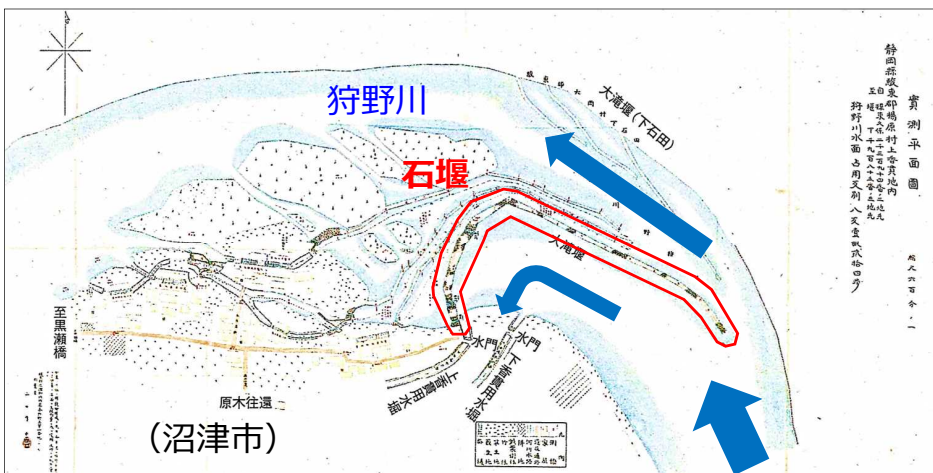
香貫用水の歴史と特徴

歴史

- 上香貫村の植田内膳が、用水路工事に着手し、**1629年頃に完成**
- 水不足解消により「香貫二千石」といわれた約220haの水田を潤し、農村の発展に大きく貢献

特徴

- 安定取水を可能とした石堰と炉灰
- ・狩野川からの取水を容易にするため、三日月形をした石堰を造成
- ・セメントが普及していない当時、砂質土に炉灰を混ぜて用水の浸透を防止

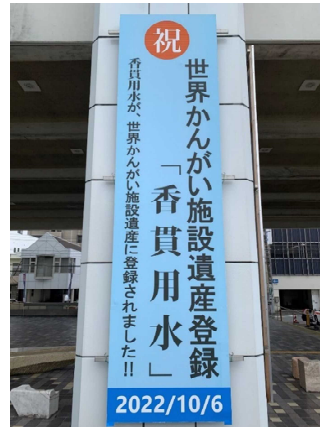


植田内膳翁頌徳碑
(香貫山香陵台)

今後の展望



磐田市報告会



沼津市役所前
看板

地域の力を活用した適正な維持管理により、

貴重な地域資源として次世代に継承



美しく品格のある邑
Beautiful and Graceful Villages in "FUJINOKUNI"

遺産登録を契機とした農業・農村振興